

令和6年12月17日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

議会運営委員会委員長 岡本 眞利子

議員派遣結果報告書

令和6年9月25日に決定されました議員派遣について、次のとおり報告する。

記

1 派遣名

十勝町村議会議員研修会（十勝町村議会議長会主催）

(1) 目的

議会活動に必要な知識の習得及び情報収集を行い、議会機能向上に資するため。

(2) 派遣場所

清水町文化センター

(3) 派遣期間

令和6年10月30日（1日間）

(4) 派遣議員

委員長 岡本眞利子 副委員長 内山美穂子

委員 小田新紀、野原恵子、谷口和弥

議員 畠山美和、塚本逸彦、山端隆治、長谷陽子、酒井はやみ、石川康弘

議長 寺林俊幸 副議長 中橋友子 （以上13人）

（荒貴賀委員、田口廣之委員、芳滝仁委員、小島智恵議員、藤原孟議員、藤谷謹至議員 6人欠席）

(5) 派遣内容

① 演題

「アドベンチャーtravelへの活用を視点に十勝川流域について学ぶ」

② 講師

帯広開発建設部流域治水対策専門官（砂防・環境）天羽 淳 氏

③ 所 感

十勝川は北海道の屋根である大雪山連峰十勝岳に源を発し、十勝平野の西北に流れ出ている。音更川、札内川、途別川、猿別川、利別川等に合流し、豊頃町大津において太平洋に注ぐ一級河川である。川を知れば歴史がわかる。川を歩くだけでも観光資源になる。川が繋がっていることで地域ストーリーを構築することが出来る。河川内ではカヌー等の水面を利用した各種アウトドアスポーツ、イカダ下りなどの周辺地域と社会・文化と深く結びついたイベントが開催されるなど利用が盛んに行われている。

十勝川で本格的な治水事業が始まったのは大正12年からで令和6年には101年が経ち、その間に流域の産業は著しい発展を遂げ、人口と資産は共に増大している。安らぎの暮らしを創るために治水事業を進めなくてはならないことを学び、自然豊かな河川環境を後世に引き継げるような川づくりが必要であると実感した。



研修会出席者



講師：天羽 淳 流域治水対策専門官



研修会出席者

2 派遣名

議会運営委員会議員研修会

(1) 目的

議会活動に必要な知識の習得及び情報収集を行い、議会機能向上に資するため。

(2) 派遣場所

幕別町役場

(3) 派遣期間

令和6年11月8日（1日間）

(4) 派遣議員

委員長 岡本眞利子 副委員長 内山美穂子

委員 荒貴賀、野原恵子、田口廣之、谷口和弥

議員 畠山美和、塚本逸彦、山端隆治、長谷陽子、酒井はやみ、
石川康弘、小島智恵、藤原 孟

議長 寺林俊幸 (以上15人)

(小田新紀委員、芳滝 仁委員、藤谷謹至議員、
中橋友子副議長 4人欠席)

(5) 派遣内容

① 演題

「人口減少時代の地方自治体の課題と議会の役割について」

② 講師

北海道大学公共政策大学院 教授 山崎 幹根 氏

③ 所感

自治体の課題について、地方の人口減少によって職員の人材確保が難しくなってきたことに加え、デジタル田園都市国家構想交付金事業への対応にも人的要因を背景に積極的に取り組む自治体とそうでない自治体の2極化が表面化している現状がある。

まちづくりを進める中では、選択と集中が重要であり、立地適正化計画や公共施設管理計画のもと、事業規模の見直しや公共施設の再編等により賢く縮めていくことも考えていかなければならない。

人口が減少しても自治体や議会が担う施策や事務の数は減らず、新たな政策課題が発生する。地方議会の主な役割は、3つの機能（行政の監視・決定・代表）をしっかりと果たすことであり、そのうえで情報公開の推進が重要である。

町民には、議員の活動実態を知ってもらうことが大切であり、議員定数や議員報酬のあり方についても、町民と議員の認識ギャップを埋めるため、あらゆる手段を通じて、町民の理解と合意を得るための活動が求められていると話された。

人口減少時代における様々な課題を再認識する一方で、今後も民意を反映させるために多様な人材がまちづくりに参画してもらえよう議会としての役割を發揮すべきと感じた。



研修会出席者



講師：山崎 幹根 教授



研修会出席者